

## 甘利大臣 発言原稿

### 「アベノミクス ～デフレ脱却から成長路線へ～」

#### 1. イントロダクション

残念ながら安倍総理は多忙により参加することができず、私が総理の名代として参加しました。私は安倍内閣でマクロ経済政策と成長戦略のリード役を担っております。本日は「アベノミクス」と呼ばれている日本の経済政策についてご紹介致します。

長引くデフレと円高を脱却し、日本経済の再生を成し遂げることは、安倍政権の政策の一丁目一番地であります。こうした決意が市場にも評価され、株価も回復し始めています。

#### 2. アベノミクスの基本的枠組

「アベノミクス」の特徴は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の3本の矢を同時展開することです。

これにより、「委縮し続ける経済」に決別し、イノベーションや新事業が次々と生まれ、雇用と所得が拡大する「成長し続ける強い経済」を目指していきます。

#### 3. 緊急経済対策

その第一弾として、1月11日に「日本経済再生に向けた緊急

経済対策」を策定しました。対策により、東日本大震災からの復興の加速や、事前防災・減災対策による国土強靱化に向けた公共投資を行うとともに、民間投資やイノベーションの促進、人材育成の強化といった、持続的成長に貢献する取組を今後進めてまいります。こうした取組により実質 GDP を 2%程度押し上げる効果を見込んでいます。

#### 4. 大胆な金融政策

政府及び日本銀行は、1月22日、デフレ脱却と持続的な経済成長の実現のための政策連携の強化についての共同声明を公表し、日本銀行は、2%の物価安定目標を導入することとしました。日本銀行には、この物価安定目標をできるだけ早期に実現するよう、大胆な金融緩和を推進することを期待しています。

#### 5. 成長戦略

中長期的には、しっかりした経済成長戦略をもとに、日本の競争力の回復、エネルギー制約の克服、イノベーション基盤の強化等を進めるとともに、規制など国内の制度的障害の撤廃を加速します。

過去の戦略が成長に結びつかなかったのは、その実行に関する政府の明確なコミットメントがなく、民間投資が起こらなかったからであります。こうした教訓を踏まえ、予算・規制改革・税制等の政策資源を一気通貫で集中投入し、成長戦略に政府が明確にコミットします。

成長戦略は、本年半ばを目途に策定する予定ですが、とりまとめを待たず、順次必要な施策を実施します。

対外的な経済政策については、日本企業の海外展開の支援強化、高いレベルの経済連携の更なる推進、エネルギー・食料の確保、観光・対内投資の促進等を進めてまいります。また、今年6月には日本で第5回アフリカ開発会議（TICAD V）を開催します。

## 6. 財政健全化

財政運営については、短期的には機動的・弾力的な運営を行っていく一方で、中長期的には持続可能な財政を実現していく意思をしっかりと示していくことが重要です。2015年度までに国・地方のプライマリー・バランスの赤字の対GDP比を2010年度の水準から半減し、2020年度までに黒字化するとの財政健全化目標を実現する必要があります。もちろん、新年度予算から、この財政健全化への取組をスタートしていきます。

## 7. まとめ

日本経済が直面しているデフレの克服、少子高齢化への対応等は、世界が未だ経験したことのない困難な課題です。日本は、他の国に先んじてこれらの課題に挑戦し解決することにより、処方箋を示し、世界に対して貢献してまいります。